

平成29年2月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、2月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご出席いただきましてたいへんありがとうございます。

さて、行政報告に先立ち、昨日開催いたしました、そうじや吉備路マラソンにつきまして、議員各位をはじめ、市民の皆様方に大変なご協力をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

今回は、エントリー数が過去最大となる2万834人、そして、実走者が19,855人となりました。すべての参加者がスタートラインに立つ、そして事故なく家路に着けるよう、前日を含め延べ4千人超のボランティアの方々とともに、市民一丸となり、安全への配慮を最重点に大会運営を行いました。

また、招待選手として、埼玉県庁の川内優輝選手、天満屋陸上部の西脇 舞選手、青山学院大学の秋山雄飛^{ゆうひ}選手など日本のトップランナーを間近で見ることのできる大会となりました。

参加人数では、全国6位の規模の大会となりましたが、

人数もさることながら、市民ランナーが喜んでくださることを究極の目的に、クオリティー重視で、名実ともに、東の東京マラソン、西のそうじゃ吉備路マラソンといわれるよう、さらに日本を代表する大会にしていまいりたいと思いますので、今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。

(予算編成について)

「総社を変える本格予算」のスタート

私は、選挙に初めて立候補したときから、ずっと「総社を変える」ということを標榜してまいりました。

当選以降、まず何を変えていくか、様々な視点やテーマで、職員の気質、考え方の変革から始まり、市民との協働や仕組みづくり、総社流の先駆的な福祉政策、積極的な企業誘致等により、人口が増える総社に変えてまいりました。

今回の予算編成において、「本格的に総社を変える」と申し上げ、実質的に予算投入を伴いながら、未知の変革に突入し、果敢にチャレンジしていきたいと思っております。

現在の総社市は、人口が、68,326人(2/24 現在)

と、過去最大を更新しており、平成28年1月1日から1年間の伸び率は、0.3%増（204人増）で、増加率では県下トップに躍り出ています。

さらに、企業誘致においては、岡山総社インターチェンジの西側に、5月22日に日本郵便株式会社の「岡山郵便局」が開局予定、今春以降には、インターネット通販大手のアマゾンジャパンの中四国初の拠点整備が行われるなど、流通の拠点性がますます高まっており、このチャンスを生かし、ついに総社を変える本丸の部分について、本格的に予算導入を行い、「総社を変える本格予算」と位置付け、まさに、まったなしの気概を持って実行してまいります。

財政面では、人口増加や企業誘致により、市民税や固定資産税などの市税1億9,518万円の増加が図られる一方で、市町村合併の特例期間の経過による地方交付税の「一本算定」の時期を迎えております。これまで、旧総社市、旧山手村、旧清音村の合算額で算定されていたものが、新総社市としてひとくくりの地方交付税となり、平成27年度から

平成32年度までに段階的に減額され、最終的には年間約8億円の減額が見込まれており、自主財源の確保が大きな課題となっております。

そのような中、ふるさと納税制度は、地方間競争による取りきり制度であり、地方創生や一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革など、地方重視、地方の考え方を後押しする切り札的政策です。現在、全国から総額11億5,363万円

(2/27 現在)のご寄付をいただいております。地方交付税の減額の荒波に抗すべく取り組んでいるところでございます。

また、返礼品であります総社産米については平成28年末で目標としておりました2万俵を上回る申込みをいただき、平成29年産米の申込みも好評で、1月から本日までで5,833俵(前年同期プラス1,244俵で推移)の申込みをいただいております。全国津々浦々の皆様に、総社のおいしいお米をお届けしてまいりたいと思っております。

「総社を変える本格予算」となる平成29年度の一般会計当初予算は、総額で262億2,000万円。過去3番目の予算規模となっております。

事業にメリハリを利かせ、財政状況のバランスを熟慮しながら、

市民活動を応援するために、地域づくり自由枠交付金は、636万円を増額、

児童生徒の教育環境の充実に向け、市内小学校の普通教室と中学校の理科室のエアコン設置を来年度内に完結するための事業に、1億5,428万円、

市民の皆様の来庁時の安全性確保のための市役所北側駐車場の整備に1,000万円など、

市民生活の利便性の向上を図る一方、平成27年8月に決議をいただいております「きびじつるの里」については、効率化により、施設管理委託料を603万円減額するなど、ゼロシーリングの精神で予算編成を行っております。

特に、本市の2つの大きな柱となる、全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けた「福祉王国プログラム」、「グランドデザイン改革」については、頭出しを行い、本格スタートしていただけるよう集中的な予算配分を図っており、具体的に、これら2つの政策について述べさせていただきます。

1) 福祉王国プログラム2017

まず、全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けて、これまで、障がい者千人雇用や雪舟くん、地食べなど、社会的に弱い立場の方々に個別に矢継ぎ早に対応してまいりましたが、来年度から、今まで着手できなかったところを含めて、総合的・網羅的に本格着手していく元年と位置づけ、「福祉王国プログラム2017」を作成いたしました。

この事業費総額1億2,916万円からなるメニューを予算化し、すべての部会において目標値を設定し、総社市の立ち位置を知ったうえで、それぞれの項目で全国屈指、全国1位を目指して取り組んでまいりたいと思います。

(ひきこもり支援)

具体的に、このメニューの中でも一番の目玉となるのが、ひきこもり支援でございます。これまで行政が扱おうとしなかった非常に難しい事案に果敢にチャレンジしてまいりたいと思います。市内に少なくとも207名おられるひきこもりの方々に、まずはワンタッチすることを目標に向かい合っ
てまいります。このワンタッチが、ご家族の方にもメッセー

ジとして届くということが、彼らにとって強い働きかけになると信じて、まず、4月1日に仮称ではありますが、ひきこもり支援センターを設置し、居場所づくりやひきこもり支援サポーターの養成を行ってまいります。また、ひきこもり予防として、不登校対策を拡充してまいりたいと思います。

(高齢者支援)

次に高齢者支援でございますが、来年度中に食の確保と、日常の声かけを目的とした配食サービスを充実させるメニューを構築するなど、孤独感や制度の狭間で暮らしにくさを感じている方々に寄り添うための予算を盛り込んでおります。

また、高年齢者がいつまでも活躍できるまちを目指した取組みの結果、昨年10月から12月までの60歳以上の就職者数は66人で、前年同期比で37%（前年48人）向上しております。今後は、高年齢者の就業1,000人を目標とし、ハローワークや地元企業等と連携して雇用のマッチングを図り、いきがいつくの一助を担ってまいります。

(医療体制整備)

次に、医療体制整備部会でございますが、目標としております適正医療の推進に向け、本市にとって最も有効な医療体制について考えてまいります。また、健康予防のメニューといたしまして、肺炎球菌の予防接種について、定期接種を受けていない方に総社市独自の助成を行い、さらには、インターネットを活用した、歩くことでの健康インセンティブなど、新たな健康ポイント制の導入について、総社流の仕組みづくりにも挑戦してまいりたいと考えております。

(待機児童ゼロに向けて)

次に、待機児童ゼロに向けての取組みですが、民間保育所の新設や改築等による定員増を行うなどした結果、平成29年4月に保育所の待機児童ゼロが達成できる見込みとなりました。今後、井尻野幼稚園と総社保育所を認定こども園に移行すべく準備を進めたいと考えておりますが、併せて、就学前の子どもをどう育てていくべきか、子ども本位の目線で、心を重視した議論を深めてまいりたいと思います。

(発達障がい児支援)

次に、発達障がい児の支援体制について、総社北小学校内にあります特別支援教育推進センターに、来年度から新たに情緒障がい通級指導教室を開室し、「きらり」を本格稼働いたします。

また、「障がい者基幹相談支援センター」の相談員を増員し、「きらり」と連携し、教育と福祉の切れ目のない相談機能を強化させてまいります。さらに、義務教育終了後のサポート体制、自立と社会参加までの支援体制の構築を図るため、関係機関との連携体制づくりに努めてまいりたいと思えます。

2) グランドデザイン改革

2点目は、グランドデザイン改革についてです。人口増や企業誘致をさらに促進するため、未来に向けたハード事業に対し、総額3億1,268万円を計上しております。

具体的には、まず、県立大学周辺に、新たな学園都市を誕生させてまいります。その延長線上にあるLRT構想を

視野に、立地適正化計画や地域公共交通網形成計画を策定し、総社市全体のグランドデザインを描きながら、市街化区域の編入や、農振除外などの要件について、国や県と折衝をスタートしてまいりたいと思っております。

また、総社市は東西道については3本の主要道があり、東西のアクセスは良い都市づくりになっておりますが、議会でも度々ご指摘をいただいておりますように、南北のアクセスは脆弱であるため、4ルート of 南北道の整備に着手してまいります。

まず、東総社駅から泉団地を結ぶ南北道、次に、総社駅前線と東総社中原線を結ぶ刑部三須線、さらに、国道180号バイパスから県道総社足守線の西山を越える部分の拡幅、川西地区では、新架橋による効果をさらに機能的にすべく、神在地域から秦地域へアクセスしていく南北道について予算化し、市内の回遊性を高め、都市の利便性や生活の質の向上はもとより、経済活動や人口集積、各地域のポテンシャルを引き上げていきたいと考えています。

さらなる人口増対策や企業誘致を行うとともに、未来を見

据え、都市機能が十分に発揮できるようなグランドデザインを描き、新しい都市空間を持った戦略的な街に変わっていきえるよう、議員の皆様方とも充分議論しながら取り組んでまいります。

3) 平成29年度体制づくり

以上、福祉王国プログラム及びグランドデザイン改革をはじめとした総社流の各種施策を実行し、自立した総社市の実現に向けた歩を着実に加速化していくため、今議会において、今年4月からの新体制についても、ご提案しているところでございます。

まず、人事案件について、11月議会でご議決いただきました「政策監」の新設に関すること、また、教育長と教育委員長の仕事を一本化した「新教育長」を導入することについてお諮りしたいと思います。

また、更なる人口増対策、市内にある空き家対策を図るため、総合政策部内に、空き家についてのワンストップ相談窓口を設けた移住定住推進室を設置いたします。

また2月臨時市議会で、指定金融機関に吉備信用金庫様をご承認いただきましたので、4月以降、平日9時から15時までの間、休憩時間なく、支払い窓口の利用が可能となります。引き続き、市民サービスの充実を図り、市民の皆様喜んでいただけるよう努めてまいりたいと思います。

(市民へのお知らせ・お願い)

続きまして、2点、市民の皆様へのお知らせとお願いをさせていただきます。

1) 赤米の日本遺産認定

先の議会でもお知らせしておりました赤米の日本遺産認定でございますが、「赤米の郷 ～神宿る山・森・神社と伝え継がれた最古の米～」と題しまして、2月2日に長崎県対馬市、鹿児島県南種子町と連名で文化庁へ申請しました。

結果は4月に発表されますが、新本に残る赤米の持つ神秘性や、荘厳な伝統行事や景色などを、全国の方々に知っていただく絶好の機会でございますので、新本地区の皆様と相談しながら進めてまいりたいと思います。

(2) 小学校ライスカレーについて

続いて、市内の全15小学校で、昔給食で出されていたカレーの味を再現する「むかしなつかしの小学校ライスカレー」シリーズの第2弾として、常盤小学校ライスカレーを12月22日から発売しております。

小学校ライスカレーは、2月9日にNHK全国放送「おはよう日本」で特集され、高い話題性のため、なんと約6分間も放送されました。放送後、全国からの注文が殺到し、発売から本日までに7,303個（総社小：4,462個、常盤小：2,841個）と非常に好調に販売されております。

また、第3弾として3月中旬には山手小学校ライスカレーを発売予定でございますが、1個売れるたびに20円をそれぞれの小学校に寄附する制度も作り、その寄附を各小学校が自由に使えることとし、地域や学校の盛り上がりにもつなげてまいりたいと考えております。

(1 1月議会での検討事項について)

さて、先の11月議会での検討事項としたものにつきまして、その結果をこの本会議場でご報告させていただきます。

まず、大熊議員からの次世代エコハウス補助制度を導入してはどうかとのご質問ですが、新たに補助要綱を整備いたしまして、市民の環境への意識を高めていきたいと考えております。

また、津神議員から、本市独自の進学支援の考えはないかとのご質問について、支援対象者への経済的な支援という面のみではなく、優秀な人材の確保や定住促進につながるような本市独自の奨学金となるよう検討してまいります。

続いて、西森議員からの、投票のために雪舟くんを運行してはどうかとのご質問でございますが、対象者の把握や線引きが困難であること、また、投票所35箇所に対して雪舟くんは9台しかなく、選挙の平等性や公平性の確保を行うことができないため、投票のために雪舟くんを活用しないという結論にいたりましたのでご報告をさせていただきます。

また、岡崎議員からの、肺炎球菌の予防接種についてご質

間については、先ほど福祉王国プログラムの中で、述べさせていただきましてとおり、定期接種を受けていない方に総社市独自の助成を実施していきたいと考えております。

以上、「総社を変える本格予算」の実施、全国屈指の福祉先駆都市の実現に向けた「福祉王国プログラム2017」、
「グランドデザイン改革」、市民の皆様へのお知らせ等について述べてまいりました。

地方創生の流れのもと、全国の地域間競争が繰り広げられる中、総社市は独自施策にこだわり、実行することにより、人口増加都市へ変革し、大いに伸びていくことができるステージに到達してまいりました。

総社市を本格的に変えていけるのは、まさしく今です。
今年から始めるんだ！という強い気持ちをもち、勇気ある決断と挑戦を行ってまいりたいと考えておりますので、議員の皆様におかれましても、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。私からの行政報告とさせていただきます。